

平成30年7月20日(金)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ



昭島市立つつじが丘小学校長

上田 祥市



夏の匂い

校長 上田 祥市

茹だるような暑さとは、このような暑さのことを言うのでしょうか。連日猛暑で熱中症が心配されましたが、本日無事に一学期を終えることができました。

しかし、この酷暑の中で悲しみ苦しみを抱えながら厳しい生活を送られている人々がいることを忘れてはなりません。7月6日からの西日本豪雨による200名を越える死者、今なお不明の方々、この酷暑の中不自由な生活を送られている被災者の方々のことを思うと、心が痛みます。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、明日明後日は地域のハイツ祭りが開催されます。8月18日19日が昭文自治会と文化自治会の夏祭りです。祭りで会う子供たちは学校で見せる顔とは別の顔を見せます。どの子も祭りの雰囲気を身体全体で感じ、解放感とワクワク感で弾けるような笑顔です。

私も子供の頃から祭り大好き少年でした。夏祭りでは、大通りをばんば踊りという地元の踊りを踊りながら練り歩きますが、その通り沿いに屋台のお店がずらりと並びます。リンゴ飴に綿菓子屋、イカ焼きにトウモロコシ。歩くたびに美味しい匂いに惹かれ、握りしめたコインでどれを選ぼうか迷いに迷います。きっと、今の子供たちも祭りの匂いにワクワクすることでしょう。

先日、日が落ちて涼しくなってから犬の散歩に出かけると、近くの公園に懐中電灯で木を照らしながらウロウロしている親子がいました。クワガタを探している様子です。樹液を舐めるコクワガタを見付けてそっと近づく子を見ながら、遠い夏のあの日と変わらぬ青い葉っぱと樹液の匂いに、子供時代の自分を見付けます。

お盆が近づくと、私の父は家の前で迎え火を炊きます。松明の小さな木片を重ねて火をつけると、松脂の香りが炎と煙に混ざって鼻に届きます。この香りが大好きで、6年生になってから送り火を焚くのは私の仕事になりました。

思い出は、肌の感覚や音と一緒に記憶の中に格納されます。匂いも同じです。昔は日常に様々な匂いがあって、匂いとともに生活を感じました。今は、匂いを消すことが多くなっていますが、匂いは人としての感覚の大切なひとつです。

子供たちは、この夏どんな匂いと一緒に思い出を刻むのでしょうか。

猛暑の夏、健康に気をつけて楽しい休みを過ごしてください。では、二学期みんな元気に学校に戻ってくるのを待っています。